

論文テーマ

生産診断を活用した改善活動の活性化

論文の主旨

近年の製造業を取り巻く環境変化は不透明感が増している。その中でも、新型コロナウイルス感染症によるサプライチェーンの弱体化、米中対立を中心とした国際政治・経済の情勢変化によるグローバル化の変質、カーボン・ニュートラル（脱炭素）に代表される地球環境保護意識の高まりが大きな環境変化として挙げられる。

日本の製造業を取り巻く環境の変化に柔軟な対応をしていくためには、製造現場におけるレジリエンス（耐性、回復力、復元力）を高め、日々の現場操業を高いレベルで遂行すると共に、環境変化や異常事象に見舞われても、高い基盤能力でそのダメージから早期に回復することが求められている。かつて日本はものづくり大国と呼ばれていたが、グローバル化の進展に伴う生産拠点の海外移転や販売価格の低減、技術の海外流出による新興国企業との熾烈な競争、団塊世代の引退と少子化の影響による生産人口の減少、それを補うための余裕のない現場操業と海外人材の活用増などにより、ものづくりの現場力は弱体化していると言われている。

環境変化に対する経営戦略の構築についてSWOT分析がよく用いられるが、自社の弱み（Weakness）の把握不足と克服の困難さが見られることが多い。いくら自社の強み（Strength）を伸ばそうとしても、いくら機会（Opportunity）を活かそうとしても、いくら脅威（Threat）に備える手段を考案したとしても、社内の仕組みや人材力の弱さがあるために、積極的な展開が難しいというジレンマを抱えているケースも多い。変化に素早く・的確に対応していくための現場力は、現在のオペレーションを高いレベルで遂行できる能力に他ならない。つまり基礎が出来ていないのに、いきなり応用が出来ないのと同じである。したがって現場力を強化し、レジリエンスを高めていくことが不可欠である。

自社の弱みを客観視し、改革・改善に向けた動きをつくる上でも、第三者の専門家による生産診断を活用することはメリットがある。また依頼先企業様のニーズに合わせた診断も可能である。いくつかの診断パターンについて、事例も紹介する。

発表者の紹介

氏名	山口 郁睦 上席主任コンサルタント
専門分野	製造業における生産管理、品質管理、管理会計等の仕組みづくり 現場改善指導、管理・監督者の育成など製造業マネジメント全般
コンサルティング歴	上記分野のコンサルティング及び研修で多数の企業様の支援に従事 多くの製造業に対し、現場診断を通じた改善計画策定支援及び改善 実行支援の実績あり